



「スラローム」は速やかな判断力と技能を身につけるために設けられた課題(静岡県・石井選手)

選手の持ち点の半分を占める「法規履行走行」では、交通ルールやマナーの交通現場での履行状況を採点(三重県・澤下選手)



丁寧に安全確認を行う鳥取県・山田選手。両親も二輪車安全運転全国大会の出場経験者



優勝した東京都チームの走行(左から小野寺選手、高原宗馬選手、片岡美樹選手、廣瀬綾美選手)

第42回

二輪車安全運転 全国大会を開催

東京都チームが
8度目の団体優勝



チームワークで2年ぶり8度目の優勝を果たした東京都チーム

8月1日(土)、2日(日)の両日、三重県鈴鹿市の鈴鹿サーキットで第42回二輪車安全運転全国大会が開催された。ライダーの安全運転技能と交通マナーの向上を図り、二輪車の交通事故を防止することを目的に開催されているこの大会には、都道府県大会で優秀な成績を収めた47チーム、187名(欠場1名)の選手が集まり、安全運転の腕を競った。

悪天候の中、選手たちは熱戦を繰り広げ、東京都チームが団体優勝を勝ち取った。



奥村萬壽雄・大会副会長の前で選手宣誓を行う大木隆次選手(埼玉県チーム)



団体入賞チーム

順位	都道府県	得点
優勝	東京都	3,895
2位	岡山県	3,895
3位	熊本県	3,825

※同点の場合は、順に法規履行走行の得点、Bブロックの得点合計、コンビネーションスラロームの所要タイムにより順位を決定した



ライダーの憧れ、国際レーシングコースをパレードする選手たち

1日目

大会初日、正午よりグランプリホールで開催された開会式では古川定昭・大会運営副委員長(財)全国二輪車安全普及協会専務理事が開会宣言を行い、昨年団体優勝を果たした埼玉県チームが優勝旗を返還した。奥村萬壽雄・大会副会長(財)全日本交通安全協会理事長による開会のあいさつ、来賓の首藤祐司・警察庁交通局運転免許課長による祝辞に続いて、水越実・審査委員会審判長(財)全日本交通安全協会安全対策部長から諸注意があり、埼玉県チームの大木隆次選手による選手宣誓で開会式は終了した。

審判員、選手ミーティングでは中澤見山・審査委員会委員長(財)全日本交通安全協会常務理事が発走順を決める抽選を行い、女性クラス(五〇〇cc)は滋賀県から、高校生等クラス(五〇〇cc)は香川県から、一般Aクラス(四〇〇cc)は青森県から、一般Bクラス(七五〇cc)は神奈川県からのスタートが決定した。大会審判団による競技説明でミーティングは終了し、悪天候の中、午後二時二十分より交通安全教育センターで競技が開始された。

競技では法規履行走行(交通ルールやマナーの交通現場での履行状況を採点と技能走行(バランスをとるための重心移動や衝撃吸収を適切に行うための技能を各課題で採点の技を、A(法規履行走行とフレイキング)、B(スラローム・コンビネーションスラローム・コーナリング)、C(応用千鳥走行・ストリートブリッジ・傾斜地走行)、D(悪路応用走行・プロックス・ネック・レムニー走行)の四ブロックを走行して審査が行われるが、悪天候のため、安全を考慮して、今大会では傾斜地走行が課題から外された。

初日の競技の後は、ライダー憧れの国際レーシングコースで体験走行が行われ、続いて夕食パーティーが開催された。あいさつに立った奥村萬壽雄・大会副会長と戸上常司・大会副会長(財)日本自動車工業会二輪車特別委員会委員長は選手たちを激励。青木哲・大会副会長(財)全国二輪車安全普及協会会長が乾杯の音頭をとり、選手たちは互いの親睦を深めていた。

個人優勝選手に
インタビュー

女性クラス



友定宏美選手
(島根県)

全国大会は3度目の出場です。とにかく一つひとつの種目を正確に走ろう、という思いで大会に臨みました。苦手だったスラロームは、練習を毎日重ねることで得意な種目となりました。今後は県内のライダーたちに、この大会への出場をさらに呼びかけていきたいです。こうした積み重ねが二輪車の事故防止につながれば……と考えています。

高校生等クラス



片岡美樹選手
(東京都)

全国大会は2度目の出場。昨年はチームの水流監督に大変お世話になりながら、結果を出せなかったのが、今年はチーム全員がリベンジを誓っていました。団体と個人双方で優勝できるなんて夢のよう。監督も少し涙ぐんでいらしたようで本当に嬉しいです。今後は二輪車の安全運転のために、私にできることがあれば何でもしていきたいです。

一般Aクラス



東 健悟選手
(愛媛県)

全国大会出場は今回で4度目。大会はプレッシャーとの戦いでしたが、チームメイトと年間を通して練習を重ね、特に土日は二輪車の交通公園で一日中練習していたので、落ち着いて競技に臨むことができました。愛媛には二輪車の優秀な指導員が多いので、その方々についていける力をつけ、将来は良い指導員になりたいと考えています。

一般Bクラス



曽我野浩二選手
(千葉県)

全国大会出場は今回で4度目。優勝できてとにかくホッとしています。勝因は平常心のまま、落ち着いて競技に臨んだことだと思います。練習は自分で内容を決め、年間を通して行っており、2か月ほどは毎週土曜日に二推の方の指導を仰ぎました。これからも安全運転を心がけ、ずっとバイクに乗っていたいと思います。

各クラスの個人入賞者

		女性クラス			高校生等クラス			一般Aクラス			一般Bクラス		
区分	順位	都道府県	氏名	得点	都道府県	氏名	得点	都道府県	氏名	得点	都道府県	氏名	得点
優秀ライダー賞	優勝	島根県	友定 宏美	985	東京都	片岡 美樹	985	愛媛県	東 健悟	975	千葉県	曽我野浩二	980
	2位	大分県	川上 マミ	985	宮城県	湯山 慎士	985	東京都	高原 宗馬	965	長野県	木村 耕	980
	3位	東京都	廣瀬 綾美	985	岡山県	山本 頼人	985	岡山県	鈴木 陽一	960	熊本県	坂本 安駿	975
	4位	大阪府	豊田 広美	985	埼玉県	林 純平	985	熊本県	田中 秀穂	960	岡山県	山崎 悟史	975
	5位	埼玉県	永原 和代	980	大分県	狭間 飛希	980	兵庫県	小西 恵一	940	島根県	平石 伶児	970
	6位	岡山県	鈴木 葉子	975	千葉県	大津 駿介	980	千葉県	長谷川 毅	935	福岡県	高田 芳晴	970
	7位	福島県	湯佐 人美	970	沖縄県	田島 哲太	970	茨城県	山中 進	930	静岡県	石井 一久	970
	8位	鹿児島県	松田 錦	965	秋田県	木村 祐太	970	神奈川県	芦田伸一郎	930	東京都	小野寺 学	960

*同点の場合は、順に法規走行の得点、Bブロックの得点合計、コンビネーションスラロームの所要タイムにより順位を決定した

主催 (財)全日本交通安全協会 二輪車安全運転推進委員会
後援 内閣府、警察庁、文部科学省、(社)全国二輪車安全普及協会
協力 三重県警察本部
協賛 (社)日本自動車工業会、(社)全国軽自動車協会連合会、(社)日本自動車整備振興会連合会、
(財)日本モーターサイクルスポーツ協会、(財)日本交通安全教育普及協会



「悪路応用走行」は路面の状況に応じて速やかに進路変更するための技能と判断力の習得が課題(長野県・木村選手)



「ブロックスネーク」は障害物のある曲折した狭路を、低速でバランスを取りながら走行する技能の習得が課題(大阪府・豊田選手)



今大会には二組の夫妻(埼玉県・永原選手、京都府・橋口選手)がそれぞれ選手として出場。写真は「ストレートブリッジ」に挑む永原選手



「応用千鳥走行」は車幅感覚を身につけ、左右とも安全な間隔をとりながら走行する課題(岡山県・鈴木選手)

2日目



前日同様の悪天候の中、午前八時四十五分から競技が再開された。初日、二日目とも、コース全体が滑りやすいコンディションとなっていたが、選手たちは、日頃から安全運転を行うための知識を深め、技を磨き、胸や背椎等を保護するプロテクターを着装した精鋭だけに、負傷者が出ることもなく競技は終了した。



応援に駆けつけた熊本県立矢部高校二輪車競技部のメンバー。今大会の熊本県チームは、安全教育に熱心な同校の在校生と卒業生で構成されている(左端は倉岡選手)

さつを行い、来賓の入会誠・三重県警察本部長が祝辞を述べた。グランプリホールで午後二時から開催された表彰式では、団体入賞チームとクラス別の個人入賞者の表彰が行われた。各クラスの優勝者には副賞として(社)全国二輪車安全普及協会よりプロテクターの目録が贈られた。一年ぶりの団体優勝を果たした東京都チームの水流文郎監督は「勝因は『チームの和』。選手とサポーターのチームワークによる勝利です」と喜びを語った。最後に中澤見山・審査委員会委員長が「レベルの高い接戦でした」と講評を行い、二日間にわたる大会は閉会した。